『百まいのドレス』
エレナー・エスティス作
石井桃子訳　ルイス・スロボドキン絵
岩波書店

すべての子どもに読書教育を！
アニマシオン
商標登録 第5139682号

会報25号

2015年1月1日（木）発行
編集人／諏訪 志げる　発行人／黒木 秀子
デザイン／株式会社RSK

特定非営利活動法人
日本アニマシオン協会 商標登録 5139691号
【法人所在地】
〒274-0825
千葉県船橋市前原西2-21-8 松沢ビル2階
【事務局】
〒299-4503
千葉県いすみ市岬町和泉1895-2 弥生寮
Tel　0470-62-5905（平日9時～18時）
Fax　0470-62-5906
E-mail　info@animacion.jp
ＨＰ　http://www.animacion.jp/

新春メッセージ　私の好きな作戦

あけましておめでとうございます。私たち日本アニマシオン協会は、読書教育の一つの提案である読書へのアニマシオンの紹介普及活動を行っています。今年もよろしくお願い申し上げます。

新年のメッセージとして、アニマシオンを実践している方々から「私の好きな作戦」というテーマで寄稿を頂きました。「作戦」とはM・M・サルト『読書へのアニマシオン75の作戦』（柏書房）で紹介されている、子どもが読めるようになるための「遊び」の具体的方法で、作戦番号はサルトの著書によっています。

子ども同士がたくさん関わり合える

東京都立川市立松中小学校教諭
中井 ひとみ

現在、六年生の担任です。今年の、読む力も意欲も十人十色の子どもたちがみんなで楽しめる作戦は、12番の**「前かな、後ろかな？」**と思っています。

松中小では、六年生は『百まいのドレス』を使っています。何かと友達関係に悩むことの多い時期、特に女子はグループの中で、マデラインのように思い悩むところも共感できると思うからです。

今年も二学期に取り組みましたが、意外や普段あまり本を読まない男の子まで、「これっていじめの話？」等と言いながら、黙って真剣に読んでいる姿を見ると、本の力ってすごいなと思わされます。

作戦が始まり、一人一人が物語から書きぬいた文章を書いたカードを読み上げて、「わたしは、○○さんの前です。」と言って前の方に移動するたびに、一緒に動くはめになった子どもたちが笑顔になります。また、中盤の作戦タイムでは、なんだかんだ言いながら、仲良く相談しています。最後に、順番通りにカードを読みあげると、恥ずかしそうに移動する子と笑いながら一緒に動いていく子どもたち。ぴったりの場所にいて得意そうな表情の子。しっかり本が読めていても、間違っていても楽しい。そしてたくさん関わり合えるところがとてもいいと思います。

クラスの人数に合わせてカードを作る時、伝えたい部分をあらすじに構成していくと、何も言わなくても、物語の思いが心に染み込んでいく感じがします。

読む力の発達段階に沿って

元愛知県名古屋市小学校教諭
JPIC読書アドバイザー
中嶋 千鶴子

子どもたちに読む力をつけるために一年間を見通して、作戦を考えることにしている。

一年生は、まだ文字の習得もおぼつかない状態からの出発である。読書を楽しいと感じてもらえなければ本を手に取ることからも遠のいてしまう。そこで、はじめの一歩は、よく知られた作戦1**「読み違えた読み聞かせ」**から入る。教科書には、「はなのみち」が取り上げられているが、私は絵本で行った。子どもたちは、教師が間違えると大喜びをして「ちがいます！」と挙手をする。「えー？どこがちがったのかしらね？」ととぼけてみせる＝記憶を探り出すのであるが、子どもたちは、嬉々としてどこが違うのか、正解は何だったのかを話すのである。

同じような作戦に、作戦2**「こだよ！」**がある。このようなことを繰り返すうちに、自然と、聴く耳が発達し、注意深く聞ける子になる。

私が一番楽しめたのは、がまくんとかえるくんシリーズの中の一話で、「なくしたぼたん」（『ふたりはともだち』所収）である。ここでは、ボタンの絵と登場人物を挿絵から描き、作戦2**「これ、だれのもの？」**を行った。ボタンの絵を見て、場面だけでなく、いつ、どこで、だれが、どうした、さらには、どんなきもちだったかを発表するのである。登場人物の行動と心情に寄り添った読解力なくしては、カードの内容は語れない。そういう力が一年生の三学期にはついているのである。

アニマドーラとしての喜び

東京都杉並区久我山小学校学校司書
学校図書館プロジェクトsliic代表
横山 寿美代

『ふたりはともだち』
アーノルド・ローベル 作
三木卓 訳　文化出版局

学校図書館という場所で学校司書がアニマシオンを行う時には、時間や予読などの上でどうしても制約があります。そのような制約をあまり考えずにできるものとして、今までよく行ってきたのはやはり作戦1**「読み違えた読み聞かせ」**です。

また、作戦29**「物語を語りましょう」**も、質問カードを考えて用意するのがとても楽しいです。

しかし、好きな作戦といいますと、実は四年前に一回しか行えていないのですが、『しょうぼう馬のマックス』（岩波書店）をテキストにした作戦27**「これ、君のだよ」**です。

『しょうぼう馬のマックス』
サラ・ロンドン文　アン・アーノルド絵
江國香織 訳　岩波書店

登場人物の服や持ち物などを、その人物役になった子どもに手渡して身につけさせていくという実にアクティブでインパクトのある作戦です。楽しく行えるのですが、その物語をよく把握し自力で判断することを求められる難しさがあります。ありがたいことに、アニマシオン協会から小道具セットをお借りすることができました。

そして実は六学年すべてのクラスにこのアニマシオンを行ってしまいました。予読は、不完全な方法ですが、一週間まえから各クラスに一冊ずつ貸し出すということで対応しました。結果は、どのクラスでも大騒ぎの大はしゃぎ状態になりました。

アニマドーラとして場を制御しきれなかったという悔いは残るのですが、それを上回る喜びがありました。子どもたちと一緒に思い切り楽しむことができたということ、そして校内のすべての子どもたちにこの本を紹介できたということです。今でもうれしい思い出です。

本の内容を深く理解するために

群馬県立太田東高等学校校長
協会副理事長
天田 比呂志

子どもたちが意外と簡単に答えられるのに、本の内容を結構深く理解できる作戦があります。作戦54**「だれが、だれに、何を？」**です。

使う本の内容によっては、小学生から高校生までどんな年齢の子どもでもできるのです。子どもたちに尋ねることは、物語や小説に書かれているせりふ（会話）、以降せりふとします、が「だれがだれに」言ったのかを答えるだけです。けれども、子どもたちはどのような場面かを自然に語りますし、どのような場面が次に続くかまでついつい語り始めてくれます。準備に要するのは、どのせりふを抜くかにかかっているだけです。

子どもたちの読む力を思い返し、カードを手にした子どもたちがどんな展開をしてくれるのかを想像しているとわくわくしてきます。アニマドールの腕の見せ所といっても過言ではないかもしれません。

定年を迎えたら、源氏物語を原文のままあるいは漢文を原文のままで、この作戦をやってみたいと企んでいる今日このごろです。定年後と言わず明日にでも挑戦しているかもしれません。

「広げる読み方」への挑戦を

協会理事長
黒木 秀子

上記四名の方に、アニマシオンを実践する中で「好きな作戦」を教えてくださいとお願いして寄稿いただきました。

皆さんに共通しているのは、挙げていただいた作戦が「まとめる読み方」のための作戦であることです。これには理由があると思います。

「読書へのアニマシオン」は「子どもを読み手に育てる」ことを目的としていますが、「読み手」の内容は、本に書いてあることを正確に理解把握し、その上で、書かれていることについての自分の意見や感想を、他の本との照らし合わせも必要に応じて行いながら、他人に分かるように表現できる、ということだと考えます。

従って、子どもに作戦を実施する際には、幼小時には「まとめる読み方」（本の内容の理解把握）のお稽古を積んで、徐々に「広げる読み方」（自分の意見の表明）に進んで行くことになります。

ですから、学校でアニマシオンの作戦を実施して積み重ねて行く際には「まとめる読み方」からスタートします。実際には、数年間かけて「きちんと正確に本を読んで理解する」ことが当たり前にできるようになってからでないと、形だけ「広げる読み方」の作戦を行っても、なかなかうまくいきません。そこで、上記四名の方々はまず「まとめる読み方」の作戦を「好き」と挙げてくださったのだと思います。

私からは「広げる読み方」の作戦である作戦6**「本と私」**を挙げます。この作戦は、読み手の子ども自身が本を評価するものです。評価を議論するに値するテキストであれば、様々な本で可能です。

逆に言えば、作品内容によって議論を促す発問は異なります。いつも一定の手順や発問形式が定まっているわけではありません。それはアニマドール自身が「本に問いかけてみる」すると「本が討論プロセスを準備してくれる」ということになります。

例えばエンデ『モモ』、O・ヘンリー『賢者の贈りもの』、ル・グウイン『ゲド戦記』などの名作を学級全員で読了して討論したいものです。

『モモ』
ミヒャエル・エンデ 文・絵
大島かおり 訳　岩波少年文庫

を育むために

豊かな読書を育むために様々な取り組みをしている学校図書館。子どもと本をつなぎ、読む力を育てるためにアニマシオンを取り入れている学校図書館も少なくありません。

そこではどのような働きかけが行われているのでしょうか？そして子どもたちはアニマシオンをどのように楽しんでいるのでしょうか？

今号では小学校と高校から学校図書館でのアニマシオンの取り組みの様子を寄せて頂きました。

子どもとつながり、読書の世界を広げ、考えを深める創造的な姿をご紹介します。

学校司書の役割としてアニマシオンの提案を

東京都荒川区立第七峡田小学校
学校司書
奥山 文子

学校司書の三つの役割

学校司書が子どもたちの読書のためにできることは、三つあると私は考えています。

第一に、学校図書館の蔵書に質の高い9類の本を揃え豊かな棚にすること。

第二に、様々な機会をとらえて子どもたちに直接本を紹介すること。本の紹介には読み聞かせやブックトークなども含みます。

第三に、教員に様々な読書教育法を紹介し、授業に取り入れてもらうことです。

以上の三点を日常的に継続して行うことで、本を読める子が育つと考え日々活動しています。

なかでも、子どもたちが本を読めるようになるための読書教育法であるアニマシオンを積極的に紹介しています。子どもたちに本を読む力（技術）がなければ、いくら面白い本を手渡しても最後まで読み通すことはできないからです。アニマシオンによって、読書が苦手だと感じている子どもたちに、本を読む楽しさ、読書の醍醐味を感じてもらいたいと願っています。

アニマシオン「どんな人？」

十月に実施したアニマシオン作戦7「どんな人？」について報告します。

黒木秀子先生の著書『みんなで楽しむ読書へのアニマシオン』（学事出版）に掲載のものを参考にしました。月例の勉強会で黒木先生や参加者の先輩方にアドバイスしていただきました。

実施にあたって日本アニマシオン協会より『時計つくりのジョニー』（エドワード・アーディゾーニ作　あべきみこ訳　こぐま社）を二十冊お借りして、足りない分は公共図書館から集めて、本をクラス人数分用意しました。

一人一冊ずつ本を手にできるということは、それだけで子どもたちにとって大きな喜びです。やる気がぐーんとアップします。

作家ごとの本の展示；よく借りられます

少しずつやり方を改善して

三年生二クラス、四年生二クラスで合計四回行いました が、一時間終わるたびに少しずつやり方を改善しました。最終的に一人一人に六人のいずれかの登場人物が書いてあるカードを配り、各自がワークシートに記入してから発表するというスタイルにしました。

人数分の本を一人一人に一冊ずつ手渡したり、カードを伏せて配ったりすることで、いつものの授業とは違ったワクワク感や特別感が生じましたが、一方、最後の発表の時間まで、子どもたちの関心を引きつけることに困難を感じました。

子どもたちは、一番その人らしいセリフのとらえ方が、人によって違うことにも気づいたようでした。嬉しいことに、子どもたちから「アニマシオンって楽しい！」という声も上がりました。

アニマシオンの後、『時計つくりのジョニー』は人気です。いままで紹介してもらった本の中で、一番面白かったと話してくれた児童がいました。

更に改善点や課題

教員からは、とてもよい物語だった、子どもたちがアニマシオンに意欲的に取り組んでいた、本の準備をしてもらって助かったなど感想が寄せられました。

また、各自がそれぞれワークシートに書く前に、一人の登場人物について一例として一緒にやってみたらどうか、各自が個人で考えたあとで、担当した登場人物ごとに集まって交流してみてはどうかなど課題を提示してもらいました。今後に活かしていきたいと思います。

学校全体でのアニマシオンを目指して

研究目標が読書でなければ、学校全体でアニマシオンに取り組むことは難しい面もありますが、教員に様々な読書教育法の情報を提供していくことも学校司書の重要な役割ではないかと感じるようになりました。

本を読める子を育てるために、遠慮せずに提案して教員と協働していきたいと願っています。

特別コーナー

図書委員会活動の一環としてアニマシオン

東京都立晴海総合高等学校
学校司書
渡部 さゑみ

勤務校の特性

昨年度から東京都立高校では夏季休業中を読書月間とし、課題図書を設定することになりました。本校でも各教科の先生方からオススメの本を紹介して貰い、冊子にして全校生徒に配布しています。秋の読書週間には、利用者に栞のプレゼントや毎年恒例の古本市を開催しています。

本校は都立高校初の総合学科で、来年度は創立二十周年を迎えます。

総合学科の特徴として、生徒は各自一テーマを設定し、課題研究（卒論のようなもの）を提出して卒業していきます。従って、学校図書館は探究学習に対応する図書館づくりになります。蔵書は文献として活用されるので、利用の多い図書館です。

しかし、読む力によって情報の取捨選択能力に個人差が生じると思いますので、アニマシオンで支援できるのではないかと考えています。

古本市を終えて

図書委員会活動の一環として

とは言っても、学校司書がアニマシオンを行う場合、時間の確保が課題となります。本校では既にブックトークで国語科の授業時間を頂いているため、アニマシオンは図書委員会活動の一環として、委員会の定例会の中で行います。

図書委員は各学年から各組2名選出されますので、学校全体で三十六名です。さまざま制約がありますので、いくつかの工夫をしています。

まず、予読が難しい状況なので、素材は、一緒に作品の世界を味わえる条件を満たす詩や絵本を扱っています。

次に作戦ですが、各自が読みとったものを大切にした上で、他者との違いがわかり、かつ、その違いを尊重し、更に作品への理解を深められるものをと考え、作戦11「これが私のつけた書名」や作戦12「前かな、後ろかな？」、作戦43「みんなの記憶」、作戦45「いい詩だなあ！」などを使っています。

図書は『としょかんライオン』（ミシェル・ヌードセン作　岩崎書店）、『わたしのとくべつな場所』（パトリシア・マキサック作　新日本出版社）、『中・高生と読みたい若い日の詩』（高文研）などを用いました。

所要時間は四十分程度になるように、簡単なワークシートを用意して進行を調整します。

委員会でのアニマシオン

実践報告を経験して

昨年度の夏、都立高校の学校司書の研修会で、アニマシオンの実践報告をいたしました。その中で、参加者にアニマシオンの体験もしていただきました。

未熟なアニマドーラではありましたが、体験してもらうことにより、アニマシオンが有効な読書教育法であることをお知らせできた感があります。

また、この実践報告後に思わぬ波及効果もありました。

ある大学の司書教諭養成課程の学生にアニマシオンを紹介する機会を得たのです。実践後にアンケートをお願いして振り返りをしましたが、どの回答からも「楽しんでいるのに、終わってみると（自分の）読み方について意識化された」と驚きを感じた様子がうかがえました。

作戦４５「いい詩だなあ！」

今後もアニマシオンの機会を広げたい

アニマシオンは、読むという個人的で内面的な作業を支援できる斬新な手法だと思います。

今後は、教科に働きかけて、授業で取り組んでもらう機会を作りたいと考えています。

アニマシオン はじめの一歩

神奈川県横浜市公立小学校非常勤講師
協会監事
山本 伸子

図書室の電算化に伴い来年度から各小中学校に一人、司書を配置する予定の横浜市。青葉区の小学校では毎年読書週間を設定し、学校独自にいろいろな試みをしています。

アニマシオンは初めてという、たまプラーザ駅至近の横浜市立新石川小学校（十八学級、荒川美代子校長）を訪問して、諏訪志げる協会理事と山本伸子協会監事が、一年生と二年生を対象にアニマシオンの授業を行いました。うち、一日は学校公開日でした。

新石川小　今年の読書週間は「これだよ」

- 読書目標冊数設定・達成者掲示（学年別）
- アニマシオン（低学年）
- ボランティア読み聞かせ（中学年）
- 校長先生読み聞かせ（高学年）
- 図書委員会の活動紹介

アニマシオン作戦は「ここだよ」

本来アニマシオンは予読をするものですが、初めての低学年ということで読み聞かせをしました。

一年生

十一月十五日（土）二校時～四校時、学級毎に第二音楽室で実施。前方中央にペープサートを置く児童机、それを隠すように大型絵本を乗せる演台を前に配置。見易い様に児童の椅子をU字型に二列に並べて置く。

実施絵本

『はらぺこあおむし』
エリック＝カール　もりひさし　やく　偕成社

【卵から孵った青虫が月曜日から金曜日まで日替わりで徐々に量を増やしながら食べ物を食べるがまだまだおなかはぺっこぺこ。土曜日に沢山の種類と量を食べ、数日後さなぎになり蝶になる話】

『はらぺこあおむし』で「ここだよ！」

準備するもの

- はらぺこあおむしの大型絵本
- 食べ物のペープサート
- パタパタ蝶々
- 色鉛筆（児童各自）

児童の関心を惹くための工夫

- 大型絵本提示のタイミング
- 各自イメージした蝶々を彩色

―― 読み聞かせ ――

読み聞かせが静かに聞けるように約束。その後、児童の元気なおまじないの声「しむおあ　こぺらは」で、（演台の後ろに隠しておいた）大型絵本をドンと提示。絵本に集中した児童たちは、繰り返しの「それでもおなかはぺっこぺこ」を火曜日頃から唱和。

―― アニマシオン ――

「ここだよ」と黒板に書きながら、遊び方の説明。登場する物の役割を決め、ペープサートを配り、登場したときに「ここだよ」の声とともにペープサートを上げること。それ以外の使い方（たたく、扇ぐ等）はしないこと。絵本を見ないで耳で聞いて反応すること。

後片付けは食べ物の種類ごとのリーダーがゴムで縛って台に置くこと等。

「あおむしは？」という児童の声で急きょ担任の先生にペープサート無しで担当して頂く。児童は大喜び。途中反応が遅い児童に対して周りが催促する場面が有ったので気が付くまで待ってあげるルールを付け足して、アニマシオン終了。「もっとやりたい」の声。

―― 蝶々作り ――

色画用紙に印刷した蝶々の羽根に各自色鉛筆で彩色。防災帽を床に敷き椅子を机として使用する。学校公開日の参観者と対面する向きになる。作業中に役割ごとに立って作品を参観者に披露。

蝶々作り

作り方を説明し、家庭での遊びへ。

二年生

十一月十日（月）二校時～四校時、場所、椅子の配置は一年生に同じ。

譜面立てにブックトーク用の絵本を動物ごとに置き、暗幕で隠しておく。

実施絵本

『十二支のはじまり』
谷　真介　文
赤坂 三好　絵　佼成出版社

【元旦に神様のところに行けば十二匹まで順番に一年間王様にしてもらえるという。それを聞いた動物たちがどの様にして神様の住む家に着いたかの話】

準備するもの

- 十二支のペープサート
- 十二支のはじまりに登場する動物たちを扱った絵本

児童の関心を惹くための工夫

- ブックトーク用絵本の選定
- 絵本提示のタイミング

―― 読み聞かせ ――

題名を読みながら十二支の意味を知っているか尋ねた後、読み聞かせをする。終了後、どんな動物がどのような順番で出てきたか、わかる範囲で発表させペープサートを順に黒板に掲示していく。

―― アニマシオン ――

説明内容は一年生に同じ。

役割で一番偉い神様を一組は校長先生、二組は特別支援の先生、三組は担任の先生にそれぞれ担当して頂く。終わった時点で、「役割を替えても一度やりたい。」の声。

―― ブックトーク ――

アニマドーラが選定した本二冊と学校にある十二支のはじまりに登場する動物たちを扱った絵本十二冊でブックトーク。

題名を紹介し、読んだことの有無、読んでみたい本を聞く程度の簡単なブックトークだが、同じ題名の絵本でも訳や絵で感じが変わること。学校の図書室にもまだ読んだことのない動物の絵本が多くあることなどを気付かせた。

ブックトーク　たくさん手が挙がりました

終わりに

図書に関して造詣が深い校長先生をはじめ、にこやかに対応してくださった副校長先生、教務の先生、図書担当の先生、大切な時間を提供してくださった低学年担当の先生方、特別支援学級の先生方、今回この様な機会を与えてくださり、感謝しております。

また第二音楽室は、防音装置が整い、広く使い易くアニマシオンをするには絶好の環境でした。有難うございました。

豊かな読書
学校図書館とアニマシオン

小学校の図書室で

東京都杉並区済美小学校学校司書協会理事　**森　和子**

読める子どもが一人でも増えるように

月例アニマシオン勉強会の折、黒木理事長から、これこそアニマシオンそのものと、『心臓に毛が生えている理由』（米原万里著・角川文庫）収載の「ドラゴン・アレクサンドラの尋問」というエッセイを紹介されました。

アレクサンドラ先生は、読んだ本について徹底的に内容を語らせる図書室の先生で、米原万里さんはこのお陰でロシア語の本が読めるようになったということです。

私は、この先生のような実力もないし、一人一人に丁寧にかかわる時間もありません。私は、子ども達を褒めることに徹することで、本を読める子どもが一人でも増えるよう努めています。

図書の時間

図書の時間は基本的に、読み聞かせ、記録、返却、貸出、静読という展開です。

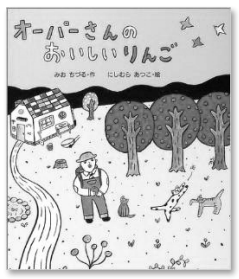
図書ファイルに、返却する本について、読み聞かせで聞いた本か等一冊ずつ記録させて、低学年は子どもの書いた記録を私がチェックしています。

一年生の最初、まだ字が書けない子どもには、印象に残った場面の絵でもいいことにして、記録することを習慣化するよう努めています。このとき、私はできる限り共感し、誤字脱字も指摘しますが、「日本語ってむずかしいね」とフォローし、苦手意識を持たせないようにしています。

読み聞かせの反応もさまざま

りんごに蜜が入り始めた十一月、『オーパーさんのおいしいりんご』（みおちづる作・にしむらあきこ絵・金の星社）を一年生に読み聞かせしました。

「一〇〇個もりんごがなるなんてすごい」、「オーパーさんは、最初ケチだったけど、やさしくなった」、「鳥がきて全部食べたけど、フンをしてよかった」、「ジャングルの絵がきれいだった」など、印象に残る場面が分散する本なのだなと、私の方が教えられました。「よく絵を見てたね」など図書ファイルにスタンプを押しながら声かけすることで、確実に書く力もついてきていると感じています。



『オーパーさんのおいしいりんご』みおちづる 作　にしむらあつこ 絵　金の星社

担任の先生の読み聞かせは素晴らしい機会

一年生の先生に、「毎日少しずつ読めるのは担任の特権だから」と、『オバケちゃん』（松谷みよ子作・講談社）シリーズを渡しました。すると、このシリーズの本すべてがこのクラスで貸し出され、予約もこのクラスでいっぱいになっています。

『オバケちゃん』松谷みよ子 作　いとうひろし 絵　講談社

アニマシオンもしています

二年生で「きりなしうた」（谷川俊太郎・詩）を群読した後、作戦十二番、「前かな、後ろかな？」のアニマシオンをしました。子どもたちは、ほとんど間違えることもなく、スムーズに楽しく行うことができました。

それをみていた担任の教師が教室で早速、班ごとに「マイきりなしうた」を創るという取組をしてくださいました。担任の教師との連携がうまくいった事例です。

図書の時間の課題設定の大切さ

昨年三年生が、『三年とうげ』を学習しているとき、朝鮮の昔話の本をたくさん（児童数以上）用意しました。静読の時間に各自で読み、物語の組み立てをワークシートに書き、次の図書の時間には班の中で発表し合うということをしました。

ふらふらしていて一人読みができず、『こぐまちゃん』シリーズを借りることが多かった男児が、メモをとりながら完読しました。明確な課題を設定することの大切さを痛感しました。

よく読める子の姿

最後に、つい最近気づいたことを報告します。

学習発表会がありました。本来は学校司書の仕事ではありませんが、人手が足りなく、照明を担当しました。リハーサル、児童鑑賞日、保護者鑑賞日と、全児童の姿を追う機会をいただきました。

上手下手は別として、役になりきっているのは、物語の本を日常よく読んでいる子どもだ、ということを目のあたりにしました。

展示は「紙芝居」

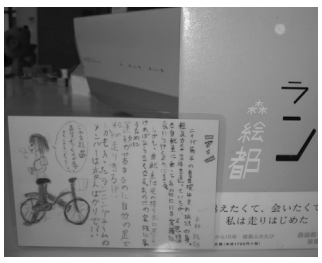
土屋文明記念文学館（群馬県高崎市）から借り受けた『丹下左膳』『黄金バット』『稲むらの火』（復刻版）などの紙芝居を展示し、生徒図書委員による実演を行いました。

民話やとんち話、しんみりした話などなど、生徒が声に出して練習するうちに、登場人物の心情を理解し、どう表現するか考え、場面の抜き方、効果的な間（ま）の取り方を工夫する過程を見ることができました。

貸出推進

図書委員がみんなに紹介したい本の推薦文をそれぞれ持ち寄り「図書委員のおすすめ本」のリーフレットを作成して配付したり、読んで良かった本にPOPを付けたりしました。

本を借りた人には、図書委員製作のブックカバーや栞をプレゼントしました。



ポップ

新聞クイズ

当日の新聞を複数用意し、予め新聞から作っておいた問題といっしょに配付します。今回は二人一組で新聞記事を探しながら解答してもらいました。

正確さと速さを競い、上位者には賞品を授与。社説、国際面、地方版、社会面など各方面から出題し、新聞記事の位置などを把握してもらおうとしました。

新聞クイズ

アニマシオン

図書館に居合わせた生徒でも参加しやすいように、今回は、よく知られた作品や絵本を使用しました。

太宰治『走れメロス』で作戦34「彼を弁護します」、『ほんとうのことをいってもいいの？』（パトリシア・C.マキサック著ジゼル・ポター絵BL出版）で作戦2「これだれのもの？」、教室へもお邪魔して『時計つくりのジョニー』（エドワード・アーディゾーニ作こぐま社）で作戦12「前かな後ろかな」をしました。

「彼を弁護します」では、登場人物になったつもりで話すこと、問うことで徐々に物語の重要なところに迫ります。

「これだれのもの？」では、持ち物からどんな場面でだれがなにをしたときのことかを思い出します。

「前かな後ろかな？」では、カードから思い出したことを「○○は△△の後だから」等と推理し、協力し合って、完成です。

アニマシオンの後は、必ずもう一度本を確認したくなるのでみんなでじっくり見直すのですが、「ここにお肉屋さんがあったんだ」「豚も牛もあるよ」「スザンナと黒猫は服装がキキとジジみたい」「中学の時に似たことがあったよ」など、気づいたことや感想がたくさん出され共有されます。読書に自分の体験を重ね合わせたり、発見したり、実に楽しそうです。この、話し合う時間を大切にしています。

作戦２「これ、だれのもの？」

作戦１２「前かな、後ろかな？」

予読のアニマシオンをしたいという生徒も

ほかにも参考図書の使い方（『理科年表』編、『国勢図会』編、おもしろ国語辞典比較など）のプチ講座も開催します。読書と子ども たちを結ぶ活動になれるといいなと思っています。

予読でアニマシオンを体験したことのある生徒からは「今度また予読でアニマシオンやりたい」のリクエストがありました。楽しいですものね。もちろん生徒に約束しました。

読書週間の取り組み

群馬県立藤岡中央高等学校学校司書協会理事　**太田　克子**

みなさんは、どんな読書週間をお過ごしになりましたか。高校の学校図書館も様々な取り組みをしています。本校の様子を報告しましょう。

アニマシオン ミニQ&A

Q．アニマシオンは継続して実施する読書教育だと聞きました。でも実際には、なかなかアニマシオンの時間を継続的に確保することができません。単発でも良いのでしょうか？

A．継続実施は理想ですが、それだけを求めて奮闘するよりも、まずは学級で、絵本を読んで遊ぶ体験をしてみるのが「初めの一歩」ではないでしょうか。アニマシオンって楽しいね、という雰囲気ができてきたら、次は自分で読む本でもしてみようか？と持ちかけるなど、慌てず急がず、学校の中でのご理解を求めながら少しずつ進めて行ったらいかがでしょう。

Q．予読というのは、大変に敷居が高いと思います。学級全員で、ボリュームのある本を読了するのは、はっきり言って無理です。

A．学級全員分の予読用図書を揃えることが、大変だと思います。ぜひ、アニマシオン協会の貸し出し用複本セットをご利用ください。本をひとりに１冊ずつ手渡して、「読んできてね」と促せば、先生のご懸念を超えて子どもは読んで来るものです。様々な事情で独力で読めないお子さんには、一緒に読んであげる等の工夫が必要かもしれません。しかし、学級の皆で同じ本を読む体験の「味」は素晴らしいものです。チャレンジしてみてください。

「引き出すこと・引き出されること」の体験

フレネ教育の研修でレッジョエミーリアを訪ねて

慶應義塾普通部教諭　**鈴木 淑博**

二〇一四年夏、セレスタン・フレネの研修会でイタリアに行きました。

セレスタン・フレネ（一八九六～一九六六）はフランスの教育者です。教師からの子どもへの伝授という伝統的な教育に反発、子どもたちの活動を中心に据えたスタイルを生み出して、教育界に多大な影響を与えた人です。

そのフレネに共感する教員やフレネ学校と呼ばれる学校の教員などが中心になっての研修会が二年に一度開かれていて、三十回目がイタリアのレッジョエミーリアでの開催でした。内容と開催地のどちらにも興味を惹かれて参加しました。

ロングアトリエと呼ばれる一日三時間×六～七回のワークショップが十五ほども用意されていて、参加者は自由に選ぶことが出来ます。

またショートアトリエというもう少し時間の短いワークショップも多数あり、バラエティーに富んでいました。

私はみんなで演劇を作り上げていこうというアトリエを選びました。指導者ではなくて調整役はイタリア人のミンモとトーニャ。ともに中学校の先生。言語はイタリア語、フランス語、英語、スペイン語、それからドイツ語も飛び交っていました。その中から手探りのように自分なりに理解しながら進んでいくことも新鮮な体験でした。

だんだん分かってきたのですが、フランスの作家ペローがまとめた童話『おやゆび小僧』のイタリア語版『ポリチーノ』のお話を元にしつつ、参加者のアイデアで自由に作り上げて、最終日に芝居を上演しようというアトリエでした。

参加者は、イタリア人五人、フランスから一人、オーストリア人一人、スペイン人一人。日本人は私を含めて四人です。

午前中三時間それを少なくとも六回続けるロングアトリエは、日本で参加する数時間の研修会とは全く違う、重みと深まりがありました。体をリラックスさせ開放すること、参加者が互いに打ち解ける各種のアイスブレーク活動、そして各自の表現活動の練習と、和やかながら体力を消耗し、同時に頭も使う時間でした。

さてアトリエも後半に入った日です。オーストリア人のワンダがミンモから出された課題が分からないと徹底的に質問し食い下がって、多くの時間を費やしました。正直私は少々うんざりだったのですが、ワンダが最後には納得して最終日の演技も立派にやり遂げたのを振り返ると、ここにこそフレネ教育そして「引き出す」教育の本質があるのではないかと考えた次第です。

日本人は議論が延々と続くと嫌になって、「もういいから、上の人からこうやれと指示してください。言われた通りにしますから」となりがちです。ですが、本来の「子どもから引き出すこと」には時間と粘り強い労力が必要であると、身を持って体験しました。

私は「読書へのアニマシオン」を十年以上実践してきて、やはり「子どもから引き出すこと」を主要なテーマにしてきましたが、今回は自分が生徒役になり「引き出される」体験もしたわけです。

「引き出すこと・引き出されること」はそう簡単なことではなく、相当な話し合いやお互いの理解、そして議論の時間が必要だと気づかされました。今後の「引き出す」活動に生かしていきたいと考えています。

公開の催し案内

■第166回アニマシオン勉強会
主　催　NPO法人日本アニマシオン協会
日　時　1月10日（土）14：00～17：00
会　場　真生会館（東京都新宿区信濃町33）
　　２階第２会議室
講　師　黒木秀子
対　象　どなたでも
参加費　NPO会員500円、一般1,000円
内　容　予読本『14歳､ぼくらの疾走　マイクとチック』
　　ヴォルフガング・ヘルンドルフ作　小峰書店
【申込・問合せ先】NPO事務局

■第167回アニマシオン勉強会
主　催　NPO法人日本アニマシオン協会
日　時　2月14日（土）14：00～17：00
会　場　真生会館（東京都新宿区信濃町33）
　　２階第２会議室
講　師　黒木秀子
対　象　どなたでも
参加費　NPO会員500円、一般1,000円
内　容　予読本『きょうりゅうが学校にやってきた』
　　アン・フォーサイス　作　熊谷鉱司　訳
　　むかいながまさ　絵　金の星社
【申込・問合せ先】NPO事務局

■第168回アニマシオン勉強会
主　催　NPO法人日本アニマシオン協会
日　時　3月14日（土）14：00～17：00
会　場　真生会館（東京都新宿区信濃町33）
　　２階第２会議室
講　師　黒木秀子
対　象　どなたでも
参加費　NPO会員500円、一般1,000円
内　容　予読本未定　　協会HPをご覧ください
【申込・問合せ先】NPO事務局

■新潟アニマシオン研究会例会
主　催　新潟アニマシオン研究会
日　時　1月26日（月）　19：00～21：00
会　場　新潟県新潟市 市民活動支援センター
　　新潟市中央区西堀前通6番町894番地
　　1西堀6番館ビル3階
講　師　足立幸子(新潟大学教育学部准教授)
対　象　どなたでも
参加費　1年間継続して参加する場合1000円
内　容　新潟市内の小学校で行ったアニマシオンの検証
　　『世界でいちばんやかましい音』
　　ベンジャミン・エルキン著/松岡享子訳/こぐま社
　　『ちびドラゴンのおくりもの』
　　イリーナ・コルシュノフ作/酒寄進一訳/国土社
【申込・問合せ先】佐藤清江 090-3001-8774

■アニマシオン勉強会群馬
主　催　アニマシオン勉強会群馬
日　時　2月21日（土）　13：30～15：30
会　場　太田市立沢野中央小学校
　　群馬県太田市富沢町７３番地
　　℡　0276-30-5521
　　駐車場は校内の駐車場をご利用ください。
講　師　天田比呂志
対　象　ご自由に
参加費　年間500円　1回限りは無料
内　容　予読本　未定　12月の会で決定します。
【申込・問合せ先】ＨＰ（アニマシオン勉強会群馬で検索）

■読み聞かせ指導者養成講座
(全5回の養成講座中の2回、以下のようにアニマシオン紹介があります。)
主　催　NPO法人まねきねこ
助　成　子どもゆめ基金
後　援　愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会
日　時　3月10日(火)・24日(火)
　　両日ともに19：00～21：00
会　場　名古屋市青少年交流プラザユースクエア
講　師　大鹿やよい・中嶋千鶴子
　　(両名ともにアニマシオン協会会員)
対　象　保護者や、子どもと接する仕事をしている方　定員16名
参加費　無料
内　容　絵本を使った作戦、読み物に挑戦する作戦など、
　　楽しく遊びながら読む力を育てるアニマシオン
　　を紹介します。
【申込・問合せ先】ＮＰＯ法人まねきねこ
愛知県名古屋市中区錦1-17-13 名興ビル2F
TEL：052-770-1260　　FAX：052-217-4489

エッセイの並木道　その2

ひとりの母親がアニマシオンに出会うまで

E・K

ひょんなことから、リレーエッセイのご指名を頂いた。はて、私は教師経験のない、むしろバブル期の能天気ＯＬしか経験していない、文才のない一介の主婦である。余程暇そうにみえたのか。いや、主婦とて暇ではない。母親の胎内に「やる気スイッチ」を置き忘れてきたらしい我が子を日々叱咤激励し、ダンナをおだて、日中は家事をしつつボランティアまで首を突っ込んで、毎日自転車で駆けずり回っているのである。

では、なぜこの話を引き受けたのか。それは、子どもが勉強で苦しんでいる？手前、親も勉強している振りをしなければ、威厳が保てないからである。ネットサーフィンをするより、知的にみえるではないか。

以上の打算から、エッセイの並木道ならぬエッセイの邪道にしばしお目汚しをご容赦願いたい。

今から七年前に、実家の父が急死した。葬式も済み、放心していると、近所の図書館から電話があった。

「Ｓさん（父の名前）のご予約なさっていた本が戻ってまいりました。図書館まで借りにいらしてください。」

どうやら父は亡くなる前日、図書館に行き、読みたい本を予約していたらしい。何も関係のない図書館員に「実は急死しまして」とも言えず、父の図書館カードを持ち、図書館に本を借りに行った。その数七冊。父は死ぬ前日まで、明日自分が死んでしまうなんて思っていなかったのだ。

すぐ返却しようかとも思ったが、本を読まずに死んだ父の無念？を晴らすため、娘の私が父の成仏を願って読んでやろうと思ったのがひとつ、もうひとつは、父の趣味嗜好というものがどういうものだったのか好奇心があったという理由で、その七冊を読んでみた。結果は玉石混交。父の雑食ぶりを改めて感じただけだった。

しかし、もうひとつ気付いたことがある。強制的であれ、他人から渡された本を読んでみると、意外な発見があるということだ。自分の趣味嗜好に沿ってとか実務に迫られた本でないところがいいのである。

父はもともと、家族とて他人、主義主張、思想を統一するものではないという考え方だったので、実家では父の本の山と私の本の山が別々にそびえており、お互いに干渉することなく本を読んでいた。学生生活では、先生方が精魂込めて選んでくださったであろうおすすめの本一覧表も、授業や宿題で仕方なく読む以外は活用することはなかった。

恥ずかしながら、他人の読む本に関心を寄せたらもっと世界が広がるのではないかと気づいたのは、父の死後、いい大人になってからなのである。

好奇心の赴くまま、子どもの小学校入学を期に、親たちの読書クラブに入会した。子どもではない。親が大人のクラブに入ったのである。（やはり主婦は暇なのかもしれない。）

そこで出会ったのが、黒木先生によるアニマシオン講座であった。取り扱った本は絵本であったが、大人気なくムキになって参加してしまった。まんまとアニマシオンの作戦にはまってしまったのである。綿密に練られた作戦（アニマドールのご苦労がしのばれます）と、作戦にふさわしい本たち。絵本ならば頭の中で絵が動き出し、物語であれば、いつもは通り過ぎてしまう会話文や情景文も一言ももらさないように集中して記憶し、想起することができてしまう。一人の「お客さん」もいない全員参加型の「眠くならない」作戦。

大人でもつい熱中してしまう作戦に子ども達が喜ばないはずはない。小道具でわくわく、次は誰かというどきどき、正解がない（ときもある）自由、本を素材にして、美味しく調理している過程を見ているようである。出来上がった料理を食べるだけでなく、わいわいと調理実習をしているような。

というわけで、子どもが成長した後も、親の私はアニマシオンを体験させていただいている。一方、子どもの読書教育は学校にまかせっきりである。いつもなにやら本は読んでいるようである）、私（魔術系ファンタジーに凝るのも、はしかのようなものだと目をつぶっている）の買った本もつまみ食いしているようである。あれこれ感想は聞かない。わからなかったり、おもしろかったら向こうの方から言ってくるからだ。教え導く母親失格なのかもしれない。

私が読書を通じて教わったことは、読みたい本を読まずに死んではいけないこと、他人の選ぶ本のおもしろさ、アニマシオンの作戦にはまって楽しむ喜びである。これからも魅力的な作品（本に限らず、芸術、料理、自然、人々までも）に出会えるかも知れないと思うと、まだまだ死ねない。煩悩たっぷりの主婦は今日も忙しいのである。

事務局便り

四月から月例アニマシオン勉強会の会場が変更になります。私たちは東京・信濃町の真生会館で長年、集って来ました。このたび、建て替えのためにこの馴染ある会場が使用できないことになりました。

思い起こせば、二〇〇一年三月、二階の第二会議室で開いた第一回勉強会の予読本はアンデルセン「雪の女王」でした。以来十四年間、毎月第二土曜日午後に、交通アクセスが良く、落ち着いた学びの雰囲気に満たされた会場を使わせていただいたことが、私たちの活動の後ろ盾となりました。真生会館、ありがとう！

二〇〇一年に勉強会を開始するに当たりさまざまご助言ご配慮をくださり、真生会館を使うように勧めてくださいましたカトリック東京大司教区森一弘司教様、同司教区雨宮慧神父様に改めて感謝を申し上げます。

六月十四日(日)午後に開かれる第八回アニマシオン読書教育セミナーの講師：秋田喜代美氏の著作を紹介します。よろしければぜひお読みくださって、六月のセミナーを楽しみにしていただきたいと願っています。

■新刊
『対話が生まれる教室　居場所感と夢中を保障する授業』
秋田喜代美　教育開発研究所　二〇一四年五月

子どもが自分の本当の言葉を語ることができる場所としての教室、そこでの夢中になり没頭できる時間を子どもたちにいかに保障するか。具体事例の中から子どもへの向かい合い方を振り返らされる本です。

■放送大学教材
『授業研究と学習過程』
秋田喜代美・藤江康彦
放送大学教育振興会
二〇一〇年三月

二〇一四年十月期からの放送大学で、この授業が放送されています。ラジオの場合は毎週金曜日の朝七時三十分から八時十五分です。私は毎週、秋田さんのお声に会うのを楽しみにこの放送を聴いています。

速報

本年八月八日(土)午前・午後に「夏のアニマシオン研修会・東京」を開くことが決まりました。

講師は新潟大学教育学部准教授の足立幸子さんをお招きします。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

（黒木 秀子）

編集後記

▼「当分の間、置かないことができる。」と長い間、学校図書館には人が配置されていませんでした。▼ようやく平成十五年までには司書教諭が、平成二十六年六月には学校司書が法制化されました。子どもたちが安心して有意義な時間を学校図書館で過ごせるようにと。▼そんな魅力ある学校図書館づくりの一翼を担う学校司書の方々から、教室で子供たちに本をつなぎ読書教育を推進する先生方から、アニマシオンへの想いが届きました。▼一人でも多くの読者の方々にアニマシオンの取り組みをしっかり届けてほしいと。どの原稿にもアニマシオンに向ける熱い想いがいっぱいに溢れて。▼子どもたちと本をつなぎ読書の力を育むアニマシオンは、現状の忙しさと闘い、創意工夫と協力関係を築きながら、学校図書館や教室で、公共図書館や地域等でたくさんの方々に支えられ大きく輪を広げているんですね。▼アニマシオンのさらなる発展と皆様のご健康とご多幸を祈って。

二〇一五年一月一日　（諏訪 志げる）

特定非営利活動法人日本アニマシオン協会 入会案内

【会員募集】
正会員 …　アニマシオン用図書の貸出しを受けられます。定期的に会報をお届けします。
　　協会主催の催しでは正会員割引があります。
支援会員 …　協会の趣旨に賛同いただき、会費を納めることで活動を支えていただきます。

【入会金・年会費】
正会員 …　入会金　2,000円、年会費　3,000円
支援会員 …　年会費　1口　50,000円　(1口以上)

振込先　ゆうちょ銀行 00250-3-66418
口座名　特定非営利活動法人日本アニマシオン協会

【入会方法】
事務局までご連絡ください。(電話、FAX、メール) 協会案内と払込票を郵送いたします。ゆうちょ銀行にて会費をご送金ください。入金確認後、事務局より会員証(会員番号記載)を郵送します。毎年4月からの新年度には年会費を納入してください。(会員証は3月31日まで有効)

【協会事務局】電話 0470-62-5905 / FAX 0470-62-5906 / E-mail info@animacion.jp